

## ○石巻市における震災伝承の現状

## 1. 行政主体による伝承

## (1) 震災遺構の保存・活用

行政が主体となり、被災した建造物の保存、活用を計画している遺構等を下表に示す。

施設名	場所	保存・活用方法	概要
旧門脇小学校校舎	門脇町4丁目	一部または部分保存し、隣接する復興祈念公園と日和山との連続性を保った震災伝承エリアの主要施設として活用。	津波被害の痕跡に加え、津波火災の痕跡を残す唯一の施設。
大川小学校旧校舎	釜谷	全体保存し、慰霊・追悼の場、防災教育の場として整備。	津波により児童、教職員 84 名が死亡・行方不明となる。
観慶丸商店	中央3丁目	市の有形文化財として、博物館機能をもつ複合文化施設のサテライトとして活用。	1903 年築。市内初の百貨店で、戦後は陶器店として営業。震災の津波で1階部分が浸水。
旧石巻ハリストス正教会教会堂	中瀬	市の指定文化財。解体、現地再建し観光施設として活用。	1880 年築。現存する木造教会では国内最古とされる。震災の津波で2階まで浸水し、外壁や床などが損壊。
中瀬北地区(秋葉神社跡)	中瀬	中瀬公園として整備。	1m 程度地盤が沈下。満潮時には地面がほぼ水面下になる。 地盤沈下の被害が明確に分かる。
住吉公園(雄島)巻き石	住吉町1丁目	「いしのまき水辺の緑のプロムナード計画」において、被災した「雄島」や「巻き石」を再生させる方針。	住吉神社(雄島)は数々の史跡があり、どんと祭の会場となっている。「巻き石」は石巻の名前の由来。
【参考】旧女川交番	女川町女川浜	現地に現状保存。保存対策無の場合 50 年、有の場合～100 年の保存期間を見込む。	「復興へ向かう原点としての遺構」として保存。観光交流エリアのメモリアル公園内に位置する。
【参考】旧野蒜駅プラットフォーム	東松島市野蒜	同遺構を中心に震災メモリアルパークが整備される。	ホームに線路や看板が被災したままの状態に残されている。

## (2) メモリアルパークの整備

国、宮城県、石巻市が主体となり、甚大な被害を受けた南浜地区において、「石巻南浜津波復興祈念公園」の計画が進められている。

- 約 38.8ha を県営・市営公園として整備することとし、県営公園の中心部に国営追悼・祈念施設(仮称)を国が整備。
- 公園のデザインとして、市街化される前の風景である湿地や樹林地を復元し、震災前に街と人の生活があったことを示す街路網を残すとともに、その上に追悼の広場を中心にビジターセンターとなる中核的施設、避難築山等を配置する。(次ページ図参照)
- 平成 32 年度中完成予定。

■平成 28 年度「参加型維持管理運営」検討協議会が設置され、市と市民活動に参画する団体で公園の新たな維持管理運営手法について検討・協議が進められる。

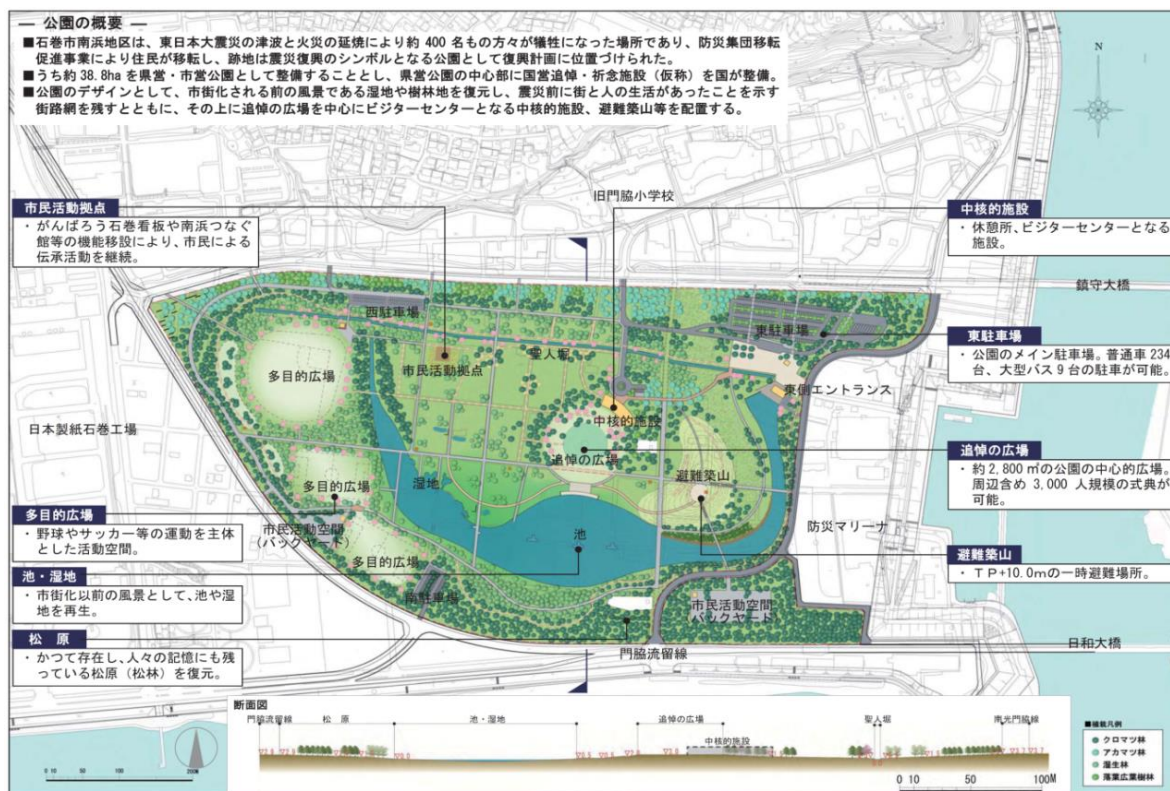


図 「石巻南浜津波復興祈念公園」の計画図

### (3) 伝承・展示施設

石巻市では、復興のまちづくりや地域の取り組みに関する情報、東日本大震災の記録と記憶の発信（展示）と、被災者同士や被災者と来訪者の交流や懇談の場の創出を目的として、「石巻市復興まちづくり情報交流館」を整備・運営している。

中心市街地に設置された中央館の他、牡鹿、雄勝、北上、河北の各地区に計画されており、開設期間はいずれも平成 29 年度までを想定している。

### ■石巻市復興まちづくり情報交流館

施設名	場所	開設年月	概要
中央館	中央2丁目	2015年3月	【概要】 プレハブ平屋建(136㎡) 【主な施設】 情報展示スペース、交流スペース
牡鹿館	鮎川浜湊川	2016年3月	【概要】 軽量鉄骨造平屋建(124.41㎡) 【主な施設】 展示・交流スペース、交流テラス
雄勝館	雄勝町上雄勝	2016年6月	【概要】 トレーラーハウス(103.17㎡) 【主な施設】 インフォメーションスペース、情報展示スペース、交流スペース、交流テラス

施設名	場所	開設年月	概要
北上館	北上町十三浜	2016年3月	【概要】 軽量鉄骨造平屋建(129.42㎡) 【主な施設】 展示・交流スペース、交流テラス
河北館	小船越二子	2016年2月	道の駅「上品の郷」内に開設

#### ■その他の施設

施設名	場所	開設年月	運営主体	概要
水辺の復興・みらい館	中瀬 (石ノ森 萬画館の 隣)	2014年7月	国土交通省 北上川下流 河川事務所	旧北上川の被災状況、復旧・復興(かわまちづくり、堤防復旧工事等)、歴史に関するパネル、VR映像等を展示。株式会社街づくりまんぼうが受託管理。
石巻魚市場	魚町 2丁目	2015年9月 (再建後)	石巻魚市場 (産業部水 産課)	管理棟2階で、魚市場の被災状況、復興の軌跡、石巻の水産業等について、タッチパネル式の説明画面と映像上映で紹介。研修室、会議室あり。
防災センター	穀町	2017年度 予定	石巻市 (総務部防 災推進課)	石巻市の「津波防災拠点整備事業」の一環として、ICT(情報通信技術)を活かした災害時の司令塔として、市役所東隣に建設。
【参考】 女川町まちなか交流館	女川駅前	2015年12月	女川町	ホール、会議室、音楽スタジオ、調理室、キッズコーナー等を備えた多目的に使用可能な施設。ロビーに震災復興記録の展示がある。
【参考】 震災伝承館	旧野蒜 駅駅舎 2階	2016年8月 (一部オープン)	東松島市	震災遺構・旧野蒜駅プラットホームを中心としたメモリアルパーク内の旧駅舎を活用。映像上映、会議スペース設置。1階には2016年度中に展示パネル設置予定。

#### (4) 慰霊碑・モニュメント等の設置

震災復興基本計画実施計画において、石巻市では重点プロジェクトの一つである未来への伝承プロジェクトとして、慰霊碑(モニュメント) 建立事業を位置付けている。

#### (5) 津波浸水表示板の設置

津波の浸水区域や浸水高さを現地に標識等で表示することにより、実物大のハザードマップとして住民の避難の備えを促し、防災啓発を図っていくことができる。

また地域住民だけでなく、観光客等にも注意喚起が行え、さらに、東日本大震災の津波の記憶を風化させず後世に伝える標にもなる。

【宮城県全体】 設置個所数：188 箇所、設置枚数：256 枚

【石巻市】 設置個所数：64 箇所、設置枚数：77 枚

## (6) 教育・学習

石巻教育委員会では、震災を教訓に、地域の特性を踏まえた実践的な防災教育の充実と児童、生徒の防災対応能力を育成することを目的として、防災教育副読本「未来へつなぐ」を作成している。

副読本は小学校1、2、3年版、小学校4、5、6年版、中学生版の3種類で、いずれも「備える」「知る」「震災のとき」「応援ありがとう」「未来へつなぐ」の5章からなっている。各小中学校では学級活動や避難訓練の事前・事後指導の資料などに活用している。

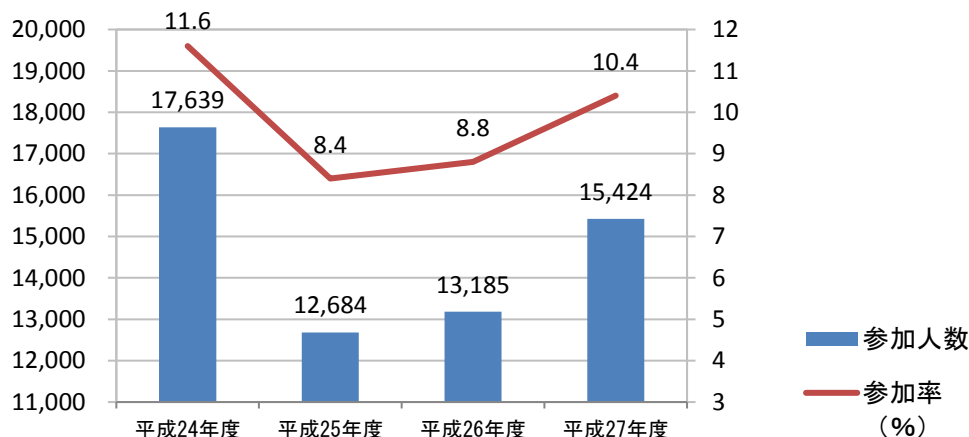
## (7) 避難訓練などの防災に関する活動

石巻市では、地域の防災力を高めるため、地域住民参加による総合防災訓練を実施している。

表 総合防災訓練の実施状況

年度	実施日
平成24年度	平成24年7月8日(日)
平成25年度	平成25年10月6日(日)
平成26年度	平成26年10月19日(日)
平成27年度	平成27年11月15日(日)
平成28年度	平成28年10月23日(日)

図 平成24～27年度の参加状況



また、石巻市では町内会や行政区などを母体とし、自助・共助の精神で防災活動を行う組織（自主防災組織）の設置を推奨している。

### 【自主防災組織の主な活動】

- ・ 平常時：防災啓発や防災訓練、地域防災マップの作成など
- ・ 災害時：地域住民の安否確認や出火防止、初期消火など

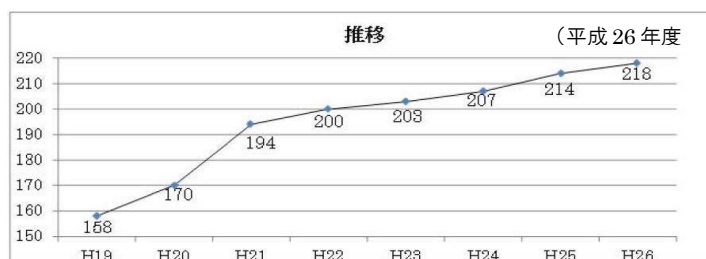


図 自主防災組織結成の推移（出典：石巻市自主防災だより第1号）

### (8) 追悼、復興に関する式典等

石巻市では、震災の犠牲者に対する追悼式典のほか、復興を祈念するイベントを開催している。

名称	場所	開催日	主催	概要
東日本大震災 石巻市追悼式	河北総合 センター (ビッグバン)	3月11日	石巻市	震災の犠牲になられた方々に対し追悼の意を捧げるとともに、石巻の復興、再生、発展を祈念する。祭壇および献花台は市役所他、各総合支所管内の会場に設置される。
石巻復興マラソン	石巻市 総合運動 公園	2015年 6月21日 (第1回)	石巻市	「被災地」石巻の使命として、復興への歩みを止めず、震災を風化させず、日本国内から海外まで、スポーツを通じて発信しつづけることを開催趣旨とする。2015年第1回の参加者は約3,500人。

### (9) ITを活用した記録・アーカイブ

行政主体で管理・運営している、ITを活用したデジタルアーカイブ等を下表に示す。

名称	運営主体	概要
【参考】 震災伝承館	国土交通省 東北地方整備 局	東日本大震災の被災経験・教訓を活かすための記録として整備局および被災した市町村等から提供された写真・映像等を掲載。 ウェブサイト上の写真、映像等の各種資料は二次利用を想定しており、自由に資料へ添付等することも可能。
【参考】 東日本大震災アーカイブ宮城 ～未来へと伝える記憶と記録～	宮城県	東日本大震災に関する記憶の風化を防ぐとともに、防災・減災対策や防災教育等に関する効果的な利活用を図ることを目的として、宮城県内の東日本大震災の記録を収集、デジタル化し公開。 行政資料のほか、写真、動画等も収録。
東日本大震災アーカイブ宮城 (石巻市)	石巻市	「東日本大震災アーカイブ宮城」のサイトに石巻市で収集した資料を提供、公開される。
【参考】 震災文庫	宮城県図書館	図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」の呼びかけ図書館として、東日本大震災に関する資料全般を広く収集し、今後永く保存することにより、震災で得た教訓を後世に引き継ぐことを目的とする。 資料の一部はデジタル化し「東日本大震災アーカイブ宮城」に提供、公開される。
【参考】 ICT地域の絆保存プロジェクト まちなか震災アーカイブ	東松島市立図書館(東松島市教育委員会)	2011年11月プロジェクト発足。市民へ震災資料提供を呼びかけ収集。2013年3月からHP公開、図書館での閲覧・DVD貸出が可能。市内150箇所以上の公共施設や商店に設置されたステッカー等のQRコードから各地域の震災時の写真が閲覧可能。

この他に、国や研究機関が主体となって実施しているデジタルアーカイブも多く存在する。例えば、国立国会図書館の「東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)」、国立情報学研究所の「JAIRO」、科学技術振興機構「J-STAGE」といったものが挙げられる。

## 2. 民間・学術機関主体による伝承

### (1) 震災遺構の保存・活用

民間が主体となり、被災した建造物の保存、活用を計画している遺構等を下表に示す。

施設名	場所	保存・活用方法	概要
旧東北実業銀行 石巻支店	中央 3丁目	建物の案内板を設置予定。	1925年築。辰野金吾と共に東京駅の設計を手掛けた葛西萬司の設計と判明。建築様式は近世復興式であり、文化財的価値の高い歴史的建造物として注目が集まる。
本間家土蔵	門脇 2丁目	石巻震災土蔵メモリアル基金を立ち上げ、募金を基に修復し、展示施設として2014年4月から一般公開。	1897年築。廻船問屋として栄えた旧家武山家(現本間家)が明治三陸津波の翌年に建造。

### (2) 伝承・展示施設

民間が主体となり運営している震災伝承施設を下表に示す。

施設名	場所	開設年月	運営主体	概要
つなぐ館	中央 2丁目	2014年4月 (移転前)	公益社団法人 みらいサポート 石巻	震災の記憶を後世へとつなぐ情報ステーション。市街地の模型等を展示。
絆の駅 石巻ニューゼ	中央 2丁目	2012年11月	石巻日日新聞	震災直後に発行した石巻日日新聞号外や石巻市、東松島市、女川町の写真を公開。
本間家土蔵	門脇町 2丁目	2014年4月	石巻ローンテニス クラブ	倒壊を免れた土蔵(1897年築)を展示室として活用。石巻の歴史や被災体験に関する資料を展示。
がんばろう! 石巻看板	南浜町 3丁目	2011年4月	がんばろう!石巻 の会	震災後1ヵ月目に設置された看板。門脇・南浜地区における追悼の場となっている。 2016年4月に門脇町5丁目から現在地に移転。
南浜つなぐ館	南浜町 3丁目	2015年11月	公益社団法人 みらいサポート 石巻	門脇・南浜地区の変遷を伝える。震災前の復元模型や復興祈念公園の計画を展示。看板とともに2016年4月に現在地へ移転。
3.11あすの ためのミュージアム	魚町 2丁目	2013年6月	宮城エキスプレ ス株式会社	津波避難ビルにも指定されている新社屋5階に設置。旧社屋や周辺の被災状況を展示。

### (3) 語り部、被災地ガイド

石巻地方で震災伝承に携わる団体・個人が任意で参加する民間ネットワークのメンバーの活動概要を下表に示す。(情報提供：石巻ビジターズ産業ネットワーク震災伝承部会)

#### ■石巻ビジターズ産業ネットワーク「震災伝承部会」活動概要一覧より抜粋 (2016/9/17)

活動団体・個人	活動エリア	メンバー数	活動概要 (語り部、被災地ガイド)	H27年度受入れ実績
特定非営利活動法人 いしのまき NPO センター	石巻市・東松島市・女川町	(ガイドとしては)1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊性のあるニーズ(行政側のレクチャー)や海外からの視察者に対応が可能</li> <li>・英語通訳、資料の手配可能(有償)</li> </ul>	-
石巻観光ボランティア協会	石巻管内(石巻地域)	会員 24 名 ガイド 10 名	ボランティアの会員の中には、民生委員、消防関係、自治会関係、行政関係があるので団体に応じてボランティアが案内をしています。	17,355 名 ／742 台
一般社団法人 ISHINOMAKI2.0	石巻市(中央～門脇町)	現地メンバー10名	<p>2.0 エクスカーション(まちを素材に、産業や防災、コミュニティー、文化等を考える学びのツアー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なコース：スライドレクチャー+学びのまち歩き(被災状況だけではなく、まちの歴史や新しい動き、特徴的な拠点などをお話ししながら案内)</li> </ul>	約 300 名
石巻ニューゼ	石巻地域 要望があれば全国各地	2 人	主に館内の展示物を見ながらの説明。また、復興で関心あるテーマがあれば、詳しく説明・解説をしています。	-
特定非営利活動法人 石巻復興支援ネットワーク	石巻市内 全国	16 名	現地のニーズと組み合わせながら、企業・大学・各団体の支援活動や社員研修、視察、スタディツアーのコーディネートを行っています。また、依頼に合わせて各地へ赴き、母親、女性の目線からの防災や復興まちづくりについての講演活動や防災関連のワークショップも行っています。	約 2,000 人日
一般社団法人(非営利)雄勝花物語	石巻市 雄勝地区	4 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育1(津波の科学的なメカニズムの学び、外部講師 堀込智之先生)</li> <li>・防災教育2(地形で変化する津波の基礎的学び、19mの津波到達痕跡と雄勝小学校の避難経路の現地案内ガイド)</li> <li>・防災教育3(住民の語り部)</li> <li>・被災地ボランティア研修(企業・教育旅行)</li> </ul>	1,300 名 ／45 回
がんばろう!石巻の会	がんばろう!石巻看板のある石巻市南浜・門脇地区	常時メンバー10名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんばろう!石巻の看板の運営(掲示板・音声ガイダンス)</li> <li>・児童、生徒、学生への語り部</li> </ul>	100 名以上
NPOぐるぐる応援団	石巻市、東松島市、女川町 関東(2017年1月～)	現地スタッフ5名 地元ボランティア20名程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語りつぎ型・コーディネート型：震災を経験した学びの語りつぎの場づくり(語り部 20名程度)</li> <li>・語り部タクシー：宮城県タクシー協会と連携し、漁師をはじめとした一次生産者、地元の語りつぎ、仮設・復興公営住宅等を回遊する</li> <li>・キッズ防災キャンプ(準備中、2017年～)：主にこども・学生を対象として「～生き抜くために身につける～アクティブ・トレーニング」の提供</li> </ul>	1,600 名程度 ／40 回程度

活動団体・個人	活動エリア	メンバー数	活動概要（語り部、被災地ガイド）	H27年度 受入れ実績
子供の安全を考える日和幼稚園遺族有志の会	日和山・門脇小学校・日和幼稚園前・子供達の被災現場（要望があれば）国内各地	2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日和山出発コース：日和山⇒門脇小学校⇒日和幼稚園前⇒被災現場</li> <li>・門脇小学校出発コース</li> </ul> ※決まったプログラムはありませんので、時間に応じてお話しします。 ※室内講演の場合は被災するまでの経緯と幼稚園の問題点をパワーポイントを使い説明します。	465名
三陸河北新報社（石巻かほく）	石巻地方を中心に	数人	①新聞発行と関連記事、企画、特集などの掲載 ②語り部派遣（石巻かほく復興写真展の一環） ③自社施設（かほくホール）貸し出し	100名
小さな命の意味を考える会	旧大川小学校校舎周辺 要請のある各地	ガイドは5名	特にプログラムはないが、学校や団体等の活動に応じて、現地視察やグループディスカッションなどに対応します。各種資料も提供します。	-
一般社団法人ピースポートセンター石巻 ※平成25年11月時点の情報	石巻市女川町	専従職員7名 ボランティア5~10名程度	1) 企業、学校、海外メディア等の受け入れ：ボランティア活動、視察、語り部などを組み合わせて、1~4日程度のプログラム（研修含む）をオーダーメイドで作っています。 2) 週末交流プログラム：月に1~2回、10人程度で、石巻の「今」と出会う週末交流プログラムを実施しています。内容は街あるき、語り部、視察、プチボランティア etc.	-
特定非営利活動法人 プレアーツリズム	石巻圏域（石巻市と隣接する市町）	5名 ※2016年9月現在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集型企画旅行：プレアーツリズム独自あるいは他の団体と共同でパッケージツアーを企画・運営</li> <li>・受注型企画旅行：依頼を受けてパッケージツアーを企画・運営</li> </ul>	-
一般社団法人防災プロジェクト	石巻圏 依頼があった講演先	1名+個人語り部さん	-	-
ホテルニューさか井	ホテルニューさか井内 牡鹿半島	3名	①震災語り部（館内） ②震災語り部（バス・鮎川浜内） ③震災語り部（バス・万石浦からホテルニューさか井）	2,200名
株式会社街づくりまんぼう	萬画館中心及び街中圏外の依頼先	4~5人	講演 <ul style="list-style-type: none"> <li>・石巻の歴史、文化、産業の発展経過と現状</li> <li>・石ノ森萬画館について</li> <li>・街の復興、新しい街づくり活動</li> </ul>	100名
公益社団法人みらいサポート石巻	石巻市	語り部プログラム担当者2名 ご協力いただいている語り部さん約10名	①語り部講話：ホール内での映像視聴及び講話 ②車中案内：お客様のバスや乗用車にスタッフが同乗し大きく被災した地域を中心にご案内 ③防災まちあるき：「石巻津波伝承ARアプリ」使用 ④語り部さんと歩く3.11 ※小、中、高校生限定 ⑤出張語り部	6,491名 ／ 339回
個人	県外 県内	1名	講演	1,200名 ／19回



活動団体・個人	活動エリア	メンバー数	活動概要（語り部、被災地ガイド）	H27年度 受入れ実績
個人（キャンパス東北）	石巻市内 全国	1名	車中案内や石巻市内での語り部以外に、他地区での講演活動も可能。	-
個人（上品の郷）		1名	-	-
個人（上品の郷）		1名	-	-
個人				-
【参考】 女川町観光協会	女川町	職員4名 ボランティアガイド7名	・バスに同乗し、震災時の様子や今後の町づくりの様子、防災の大切さなどを案内 ・パワーポイントにて映像も交えて案内	11,999名 ／516件
【参考】 女川町ゆぽぽコンソーシアム	女川町、石巻圏内及び被災地全体	10名	団体、個人共に随時ご相談受付 （サマースクールなど受入れ実績あり）	-

石巻地方ではこの他にも震災伝承に関わる取り組みが行われている。企業や個人で行っているものも含めると、その全貌を把握することは難しいが、一部を下表に示す。

活動団体・個人	活動エリア	活動概要
株式会社ヤマサコウショウ	石巻市	ツアーバスに添乗し被災箇所の案内を行いながら、当時の状況を説明する（無料、最後に直売店に立ち寄り買い物）
道の駅 上品の郷		バスにガイドが乗車し、被災地を巡りながら当時の状況や現在の様子を説明する被災地案内（昼食は上品の郷で）
第2勝丸保存会	雄勝町 波板地区	・「第2勝丸」はハワイで発見された雄勝町波板地区の津波漂流船（和船）2016年3月11日県の海洋実習船に積載されて帰還 ・前年5月に保存会が結成され、波板で展示・保存の計画
HOLITON波力研究所	（雄勝町）	・津波のメカニズムを研究（津波発生装置を開発） ・所長の堀込智之氏は石巻で調査を行い、防災教育にも取り組む
【参考】 奥松島観光ボランティアの会	東松島市	震災学びのガイド ①体験語り部【車窓コース】野蒜・洲崎・新町地区・宮戸地区などをバスに同乗して巡り、震災発生当時や復興の様子を説明 ②【大高森山コース】松島湾の絶景と海岸の復興を一望
【参考】 奥松島遊覧船	東松島市	遊覧船で松島湾の絶景とともに震災の爪痕や復興が進む沿岸部の様子を洋上から見学することができる。

## (8) 震災、復興に関する行事

東日本大震災後、追悼や復興、地域活性化を目的に民間が主体となって開催された行事・イベントを下表に示す。

名称	場所	開催日	主催	概要
石巻川開き祭り	中心市街地	毎年 7月31日 8月1日	石巻川開祭実行委員会	1916年以降（戦争等で中断した年を除き）続く、北上川を開削し港を開いた川村孫兵衛重吉翁に対する報恩感謝の祭り。2011年も縮小して開催、震災後は東日本大震災供養祭、流燈が併せて行われている。
被災野に大きな花アート	旧門脇小学校、中瀬公園	2015年8月11日	花とアートで再生復興プロジェクト委員会	震災の犠牲者の鎮魂と被災地の復興を願いながら子供達が描いた花の絵を奉納するイベント。
ツール・ド・東北	石巻～女川～南三陸～気仙沼	2013年11月 2014年以降9月中旬	河北新報社 ヤフー株式会社	石巻をスタートし、女川、南三陸、気仙沼など被災地をコースとするロングライド形式の自転車イベント。復興支援を目的とし、サイクルツーリズムの魅力を発信することで、東北の交流人口の拡大や観光客の誘致につなげる。2016年は牡鹿半島を回るコースに4か所の「語り部ステーション」が設置された。
東日本大震災追悼3.11のつどい	門脇町5丁目地内（※2017年は移転先の南浜町3丁目で開催）	毎年 3月11日	東日本大震災追悼3.11のつどい実行委員会	2012年以降、3月11日に「がんばろう！石巻」看板の周りで3,000個の灯ろうを設置し行われている慰霊・追悼の行事。1000日単位でも同様に灯ろうにあかりを灯して追悼行事が行われる。